

平成20年度第4回 産業応用部門論文委員会主査会議議事録（案）

1. 日時 平成20年10月7日（火） 13:00 - 15:00
2. 場所 電気学会 第4会議室
3. 出席者(敬称略)
林（編修長，青山学院大学），大石（編修長補佐，長岡技術科学大学），田中（D1主査，山口大学），五十嵐（D1副主査，富士電機デバイステクノロジー），大山（D2主査，東京工科大学），織田（D2副主査，松下電器産業），松岡（D3副主査，東芝），山下（ゲストエディタ，NTTファシリティーズ）
4. 提出資料
20-4-0 議題票（五十嵐）
20-4-1 前回議事録（案）（五十嵐）
20-4-2 電子査読システムの運用状況（大石）
20-4-3 共通英文誌特集号（D部門担当）2009年3月号D部門特集号経過報告（10月4日現在）（大石）
20-4-4 掲載論文の問合せについて（大石）
20-4-5 SPC研究会特集号計画（竹下）
20-4-6 返送異議書（五十嵐）
5. 議事
 - 5.1 前回議事録の確認（資料20-3-1）
 - ・ 予めメールで配信済み議事録について承認された。
追記箇所は，
5.6 特集号募集締切から掲載号までの短縮について，査読期間等を確認し，短縮を検討することになった。
 - 5.2 前回主査会以降の処理事項
 - ・ Extended Summaryについて，カスタムジャパンとの守秘義務契約を取り交わした。
 - ・ 意見交換会指摘事項
 - ① 分野を特定しての掲載を認める。たとえば，従来技術のD/Dコンでも自動車分野では重量や体積で画期的であれば，掲載する。
 - ② 掲載時の掲載分野が，優先付けができていない。番号順になってしまう。これはシステム的な問題なので修正するよう技術委員会に提案する。
 - ③ 「英文論文の再査読論文の仕方」についてガイドを作成する。まず，適当な論文がないか各部門で探し，著者の了解を得てガイドに活用する。
 - ④ 論文の評価があいまいとの指摘があり，点数での基準案が検討された。
百点満点で Excellent:90点以上，Good:90～70点，Fair:70～50点，Poor:50点未満としたい。これで問題ないかD1-D3の論文委員会で確認し，次回決定する。
 - ⑤ 査読者のステータスアップのため，以下を検討する。
 - a. 年度末に査読者一覧を論文誌に掲載する。09年3月号に掲載できるか事務局に査読者

- 一覧があるか確認する。なお、査読者とは論文査読結果を回答した時点で判断する。
- b. 論文委員に委嘱状を出し、ID登録をしてもらうようにお願いします。
 - c. また、査読件数が多い委員、長年論文委員を務めてくれた委員（例えば退会時）感謝状、貢献賞を出したい。

5.3 電子投稿システムのWEB表記について

- ・ 投稿者に判定がWEBでは見えない（連絡担当著者にメール連絡のみ）ため、共著者にも結果がわかるようWEBで表記してもらうよう提案する。
- ・ 英文論文誌のサイトがわかりにくいいため、一覧になるように提案する。
- ・ 論文の経過日数に積算日数が掲示されない（現在は、主査、幹事が処理をすると日数がリセットされる）ため、積算日数が掲示されるよう提案する。
- ・ 編修委員会情報として、システムの修正に関して、以下の通り山下委員より報告された。
 - a. 最初に投稿された部門で、その論文の査読は他部門が査読する方が適切と判断された場合、現在は再投稿になるが、年内を目処に最初の受付日を残したまま部門間移動できるような修正を行っている。
 - b. 論文委員会への連絡事項について変更（削除）する項目があれば各部門より提案する。ただし、9,10項は残すこととする。
- ・ 査読中の論文数が英文論文と一般論文で別々の表記になっているため、統一して欲しいとの要望があった。
- ・ また、確認事項として、英文論文の照会は、著者が日本人のみの場合は日本語でOKだが、1名でも外国の方が入ると英語とする。
- ・ WEBの改善案をまとめて提案することとした。

5.4 電子査読システム運用状況について（資料20-3-2）

- ・ 資料に基づき、大石編修長補佐より説明があった。受付論文数は、20年度1月-9月でD1:67件、D2:62件、D3:27件である。
- ・ 英文論文誌は、D1:11件、D2:16件、D3:7件である。

5.5 共通英文誌特集号（D部門担当）2009年3月号D部門特集号経過報告（10月4日現在）

- ・ 資料に基づき、大石編修長補佐より論文の状況説明があった。全て解説論文で10件の論文が投稿された（1件は投稿取消しがあった。）。今後のスケジュールは、11月20日掲載決定、12月10日最終原稿提出で進める。ほとんどの論文が第1回の査読中のため、差読者に期限を守るよう確認する。

5.6 SPC研究会特集号計画（竹下）

SPC研究会特集号を計画してるが、例年通りとすると、投稿締切：2009年3月 論文掲載：2010年3月号であるが、掲載決定から掲載までの時間を短縮するため、投稿締切：2009年3月 論文掲載：2010年1月号にしたいとの提案が竹下委員よりあった。審議の結果、短縮する案を受けることとした。

5.7 D部門誌の解説論文について

解説論文を企画して、実績を作ることが、大石編修長補佐より提案された。自動車分野など 企画しやすいもので計画する。また、査読時 解説論文であることを明

記して、有効性を中心に査読する。新規性はあまり厳しく見ない。また、特定論文（例えば著者のみ）で構成されないように注意する。

5.8 掲載論文の問合せについて

掲載論文と既発表論文が同じ論文ではないかとの問合せがあった。主査会の審議の結果、違う内容の論文であると判断した。回答書作成は、大石編集長補佐が担当する。

5.9 返送異議書

D 判定への異議書が出されたが、主査会で確認したところ、査読者の意見どおりで、新規性がわかるように工夫して、新規論文として投稿してもらうこととした。回答書作成は、D1 田中主査が担当する。

5.10 編修会議報告

山下委員より、編修会議の審議内容の報告があった。

- ① 共通英文誌特集号のD部門担当は、当面は2009年3月号であり、次は2010年5月号となる。毎年1月号の特集は、上記順番とは別に各部門から提案することとなっているが、これも2010年1月号までは埋まっている。
- ② 電子投稿・査読システムにおける論文委員会への連絡事項について変更（削除）する項目があれば各部門より提案する。ただし、9,10項は残すこととする。本件は、大石編集長補佐が取りまとめ山下委員へ連絡することとした。
- ③ 電子投稿・査読システムに英語サイトが完成したので、外国人査読者による査読も可能となった。ただし、マニュアルについては作成中。

6. 次回開催予定

次回は以下の日程で開催することを予定する。

日時：12月2日（火）13：00～14：30

場所：電気学会第4会議室（市ヶ谷）

以上
五十嵐